

医療救護訓練を実施



負傷者の外見や聞き取りにより緊急性と重症度を判断する医師ら

11月29日、市と下呂市医師会などは、萩原町のあさぎり体育館で医療救護訓練を行いました。最大震度6強の直下型地震が発生し、土砂崩れによる家屋倒壊と国道41号線の不通、交通事故により多数の負傷者が発生した想定で行われました。行政と医療機関との連携訓練やトリアージ訓練（重症度と緊急性によって分別し、治療の優先度を決定すること）、自治会や女性消防クラブによる搬送訓練も実施されました。

【健康医療部・医療対策課】

訓練には10団体170名が参加、下呂看護専門学校の学生が演じる負傷者に医師らがトリアージを行いました。

この事業では、交流人口の増加を図ることで地域の活性化を図り、森林環境保全に対する理解を深め、上下流域が連携して保全活動に努める事を目的に、名古屋市上下水道局職員37名が参加しました。当事業は、今年度岐阜県が導入した清流の国ぎふ森林・環境



植樹をする名古屋市上下水道局職員のみなさん

水と緑の交流森林整備事業を実施

市では、木曽三川の下流域へ水を供給する「岩屋ダム」を有していることから、川のつながりによる上下流域の交流を行う「水と緑の交流森林整備事業」水源林保全体験研修を行いました。

この事業では、交流人口の増加を図ることで地域の活性化を図り、森林環境保全に対する理解を深め、上下流域が連携して保全活動に努める事を目的に、名古屋市上下水道局職員37名が参加しました。当事業は、今年度岐阜県が導入した清流の国ぎふ森林・環境

【農林部・林務課】

11月15日、「岐阜・下呂・郡上観光宣伝協議会」で3市合同の観光キャンペーンを東京都内の有楽町駅前広場で開催しました。会場では花火ミュージカルのマスクコットキャラクター「はなミュー」も登場。訪れたお客さんに喜ばれています。今後も「観光立市」として各地でのPR活動を行い、広域連携を図りながら誘客に努めていきます。

【観光商工部・観光課】

観光キャンペーンを開催



開かれた議会をめざして

議会報告会・意見交換会を開催します。

下呂市議会では、時代が求める議会の“あるべき姿”を考え、市民の皆さんにとって開かれた身近な議会となるよう計画しました。日程は次の通りです。

【開催日程】

地域	実施日	会場
金山	1月21日(月)	下原公民館
下呂	1月23日(水)	下呂市民会館
馬瀬	1月25日(金)	馬瀬中央公民館
萩原	1月28日(月)	星雲会館
小坂	1月30日(水)	きこりセンター

※いずれの会場も午後7時からです

市民の皆さんとの多数の参加をお願いします。

【問合先】議会事務局

☎24・25222 (内線302)

下水道への早期接続をお願いします

下水道の役割

下水道は、下呂市の美しい水環境の保全や、まちづくりに欠かせない施設です。下水道の整備は、世代間で負担し支えあいながら長期間にわたって実施することです。水環境の保全と、まちづくりと一緒に担う大切な事業です。

水洗トイレで快適生活

せっかく下水道ができるのも、正しく大切に使わなければ、私たちの生活に本当に役立つことにはなりません。下水道が使用できるようになつた区域は、3年以内にくみ取り式トイレを水洗トイレに換えなければなりません。また、トイレの排水せん。また、トイレの排水しか処理できない単独浄化槽は、風呂や台所の生活排水がそのまま河川へ流れてしまい、水質悪化の原因となります。単独浄化槽を下さいの家庭も、下水道への

接続をお願いします。

下水道への接続工事

排水設備や水洗トイレへの改修工事は、市が指定した「排水設備工事指定店」でなければできません。指定店には排水設備の専門的な技術と知識を持った「排水設備責任技術者」がいますので、安心して工事を任せられます。

水洗便所等改修資金利子補給

市では、下水道への早期接続を促進するため、利子補給制度を設けています。供用開始(告示)日から3年以内に下水道への接続工事を行う場合に、市内の金融機関から融資を受けた場合、その金利に對して補助を行います。詳しくは担当課までお問い合わせください。

【上】下水道部・水道料金課
☎24・25222 (内線2584)

地域でできること ～男女共同参画の視点から～

11月22日に萩原町の星雲

会館で男女共同参画についての講演会と意見交換会がありました。この会は下呂市男女共同参画推進懇話会が主催したもので、各地区区長や地区の防災に関わる女性など約120名の参加がありました。講師には、

昨年9ヶ月間、宮城県石巻市立青葉中学校へ派遣教員として赴任した、安江有希

奈先生(現・白川町立白川中学校養護教諭)を迎え、震災被災の甚大な地域での貴重な体験をスライドを交えながら講演していただきました。

その後の意見交換会は、"地域の防災に女性が関わるためにはどうすればよいのか"という視点で行われ、参加者らが意見交換。「女性は男性より細かな点に気が付く」「女性防火クラブなど

が出されました。男女が互いの意見を尊重し、認め合える機会をつくることが、地域の防災・減災につながるのではないか。

【経営管理部・総合政策課】



付く」女性防火クラブなどの組織を積極的に取り入れる」など、さまざまな意見

がございました。詳細については、広報誌2月号で紹介いたします。

【経営管理部・秘書広報課】